

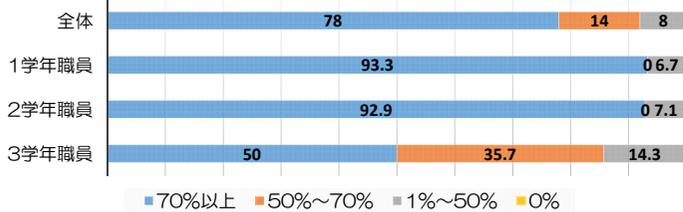
H30年度 職員による天草高校SSH意識調査アンケート集計結果

Q1:天草高校のSSH研究開発課題を知っていますか



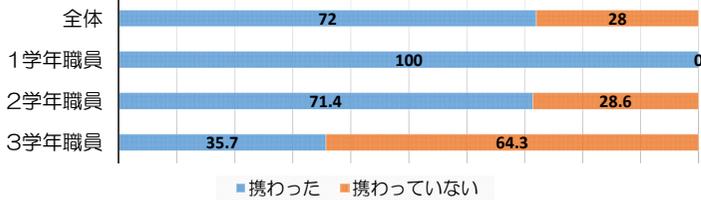
H30.2月実施
※学年所属なしの先生方の回答は、全体集計に含まれています。

Q2:今年度のSSH事業をどの程度知っていますか



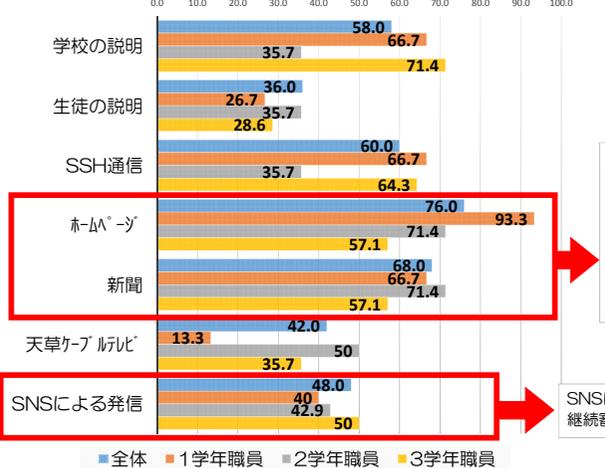
実施要項の配布やSSH通信の発行等が主な通知の仕方です。やはり、主対象で活動する生徒の姿が見えることが大事だと思います。

Q3:SSH事業に携わりましたか



昨年度のアンケートで携わったと答えた割合は53%。特に、今年度は、2学年の先生方が携わったと答えています。2年ASクラスができたことや、英語科によるプレゼン指導が行われたためだといえます。

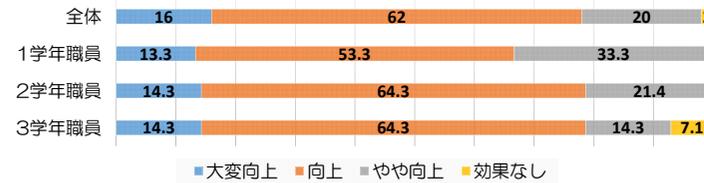
Q4:SSH事業成果の広報に有効であると思うもの(※複数選択可)



研究成果の広報はSSH事業に含まれます。今年度から、ホームページ管理をSSH研究部が行っており、ほぼ毎日更新しました。また、天草サイエンスアカデミーやイルカラボとの共同研究、科学部の研究紹介等、昨年度よりも多く新聞記事に取り上げられました。外部に発信することで、生徒・職員の思考が外向きに代わり、地域に対する貢献もできると考えます。

SNSによる発信は、効果があると思いますので継続審議します。

Q5:生徒の科学技術に対する興味・関心・意欲が増しましたか

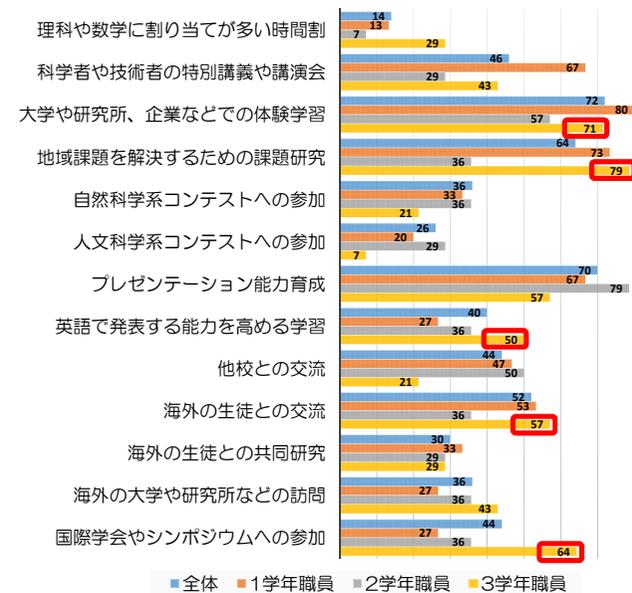


SSH事業が生徒の役に立っているかという問いです。昨年度より、1学年職員からの回答数値が低くなっています。逆に、2学年職員の数値は高くなっており、ASクラスを中心とした科学分野における生徒の意識の変容が、他の生徒にも好影響を与えているためではないかと考えます。

Q6:生徒の科学技術に関する学習に対する意欲が増しましたか

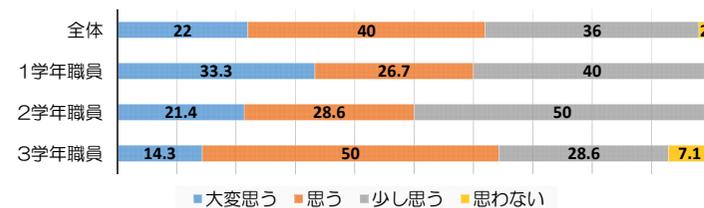


Q7:天草高校SSH事業に求めること



黄色のグラフに着目してください。3学年の先生方からの回答です。体験学習や課題研究、外部発表の機会など、生徒の活動の場が多くあることを求めるといった回答となっています。やはり、受験期にも、そのような力が求められていることがわかります。また、昨年度より、海外との交流等の項目が増加しています。韓国やマレーシアでの研修もあり、先生方にとっても海外が身近なものになってきたといえます。

Q8:SSHが指導力向上に役立つと思いますか



今年度、課題研究の指導法という職員研修を実施しました。探究の視点を全職員が共有し、全教科を通して指導することは、生徒にとって大きな力になるといえます。